成人看護学実習

成 人 看 護 学 実 習

Ⅰ．目的

成人期にある対象を理解し、あらゆる健康問題に応じた看護実践能力を養う

Ⅱ．目標

１．成人期の特徴と保健問題の関連について理解できる
２．セルフマネジメント・セルフケア再獲得が必要な人を理解し、看護が実践できる
３．健康危機状況にある人を理解し、看護が実践できる
４．緩和ケアを必要とする人を理解し、看護が実践できる
５．健康問題に対応した看護実践のあり方を考察することができる
６．チーム医療を理解し、継続看護について考えることができる

Ⅲ．実習方法と時間数

１．成人期にある対象を受け持ち、看護過程を展開する

２．実習内容・実習時間・場所

	時間	実習内容	実習場所
オリエンテーション	3 時間	成人看護学オリエンテーション	学内
関連実習場所見学･オリエンテーション	1 時間	手術室の概要について	第三病院
	1 時間	透析室の概要について	
	1 時間	救急室の概要について	
	1 時間	集中治療室の概要について	

科目	単位（時間数･日数）		実習内容	実習場所	実習時期
成人看護学実習Ａ	6 単位（270 時間）	2 単位（90 時間・12 日間）	ｾﾙﾌﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄに向けての看護・ｾﾙﾌｹｱ再獲得に向けての看護	慈恵第三病院　病棟	３年次
成人看護学実習Ｂ		2 単位（90 時間・12 日間）	健康危機状況にある人の看護	慈恵第三病院 病棟・手術室・集中治療室・救急室	
成人看護学実習Ｃ		2 単位（90 時間・12 日間）	緩和ケアを必要とする人の看護	慈恵第三病院　病棟	

Ⅳ．実習評価

担当教員が総合的に評価する

成人看護学実習オリエンテーション

１．目的

成人看護学実習の目的・目標・内容・方法を理解し、成人看護における自己の課題を見出し実習に臨む姿勢を養う

２．目標

１）実習目標・内容・方法が理解できる

２）成人看護学実習の進め方と留意点がわかる

３）成人看護学実習における自己の課題がわかる

３．方法

１）時間：3 時間

２）実習場所：学内

３）内容：以下の項目について実習担当教員より説明する

（１）実習の目的・目標

（２）習得単位

（３）成人看護学実習の概要

（４）成人看護学 A 実習の目的・目標・内容

（５）成人看護学 B 実習の目的・目標・内容

（６）成人看護学 C 実習の目的・目標・内容

関連実習場所見学・オリエンテーション

１．目的

関連実習場所の概要及び入室退室時の規則を知り、効果的な学習をすすめるための機会とする

２．目標

１）手術室の概要及び入退室の規則を知り、手術室実習に臨むことができる
２）集中治療室の概要及び入退室の規則を知り、集中治療室実習に臨むことができる
３）透析室の概要及び入退室の規則を知り、透析室実習に臨むことができる
４）救急室の概要及び入退室の規則を知り、救急室実習に臨むことができる

３．方法

１）手術室
（１）場所：手術室
（２）時間：1 時間
（３）内容：①手術室実習の目的・目標・内容
②実習を行う上での入退室時の注意事項等の説明
（４）方法：前半・後半（夏季休暇前までに成人 B 実習対象グループが前半，夏季休暇後のグループを後半とする）に分け、手術室事前オリエンテーションを実施する。詳細については掲示をする為、確認すること

２）救急室・集中治療室
（１）場所：救急室・集中治療室・学内
（２）時間：各 1 時間
（３）内容：①救急室・集中治療室実習の目的・目標・内容
②実習を行う上での入退室時の注意事項等の説明

３）透析室
（１）場所：透析室・学内
（２）時間：１時間
（３）内容：①透析室実習の目的・目標・内容
②実習を行う上での入退室時の注意事項等の説明

４．その他：各関連場所を 1 人で実習がきるようにメモをとりながら聞くこと

成人看護学実習Ａ

１．目的

セルフマネジメント・セルフケア再獲得が必要な人を理解し、看護が実践できる基礎的能力を養う

２．目標

１）患者及び家族の疾病・障害の受容、疾病コントロールのための行動変容プロセスの支援を理解できる

２）疾病および治療による身体の変化について理解できる

３）疾病および検査・治療に伴う身体的・心理的苦痛に対して援助ができる

４）セルフケア能力に応じた生活の支援と自立への援助ができる

５）チーム医療・継続看護について理解できる

３．実習内容

１．生活者としての対象の理解 ２．対象の病態と健康の段階のアセスメント ３．対象と家族の病気とセルフマネジメントに対する認識のアセスメント ４．症状コントロールのための行動変容のプロセス ５．症状コントロールのための治療とその支援 ６．セルフマネジメントを促すための教育的支援 ７．対象と家族の自己決定への支援 ８．社会資源の活用
１．セルフケアレベルのアセスメント ２．生命に関わるセルフケアの低下と再獲得への援助 ３．日常生活動作に関わるセルフケアの低下と再獲得への援助 ４．社会生活に関わるセルフケアの低下と再獲得への援助 ５．セルフケアの低下から再獲得までの心理的受容・適応プロセスへの理解と援助 ６．対象の QOL を高めるための援助 ７．家族の支援 ８．チーム医療と継続看護

４．実習方法

１）セルフマネジメント・セルフケア再獲得を必要とする対象の看護を病棟で学ぶ

成人看護学実習Ｂ

１．目的

健康危機状況にある人を理解し、看護が実践できる基礎的能力を養う

２．目標

１）麻酔や手術侵襲による身体変化について理解できる

２）周手術期にある人の心理的特徴を理解できる

３）術後合併症の予防と、回復を促進するための援助ができる

４）身体機能の変化に応じた、社会への適応と復帰を目指すための援助ができる

５）周手術期･集中治療･救急治療におけるチーム医療の実際について知ることができる

３．実習内容

１.術前の身体･精神的状況のアセスメントとそれに応じた術前準備
２.麻酔や手術侵襲による影響を踏まえたアセスメント
３.周手術期における身体的、精神的苦痛の緩和への援助
４.術後合併症を予防、回復を促進するための援助
５.早期離床の必要性の理解と援助
６.術後の生活を再構築するための援助
７.創傷治癒過程の理解
８.ボディイメージの変容に対する援助
９.周手術期・集中治療・救急治療におけるチーム医療
１０.集中治療・救急治療を受ける対象への援助
※（手術室実習・集中治療室実習・救急治療室実習については、別頁参照）

４．実習方法

１）周手術期にある対象の看護は手術室・外科病棟で学ぶ

２）クリティカルケア看護は集中治療室・救急室で学ぶ

※詳細は「成人看護学ＡＢＣ実習の進め方」４，５，６を参照

３）実習記録について：成人看護学実習Ｂでは「一日の実習記録」「受け持ち患者記録」に加え、「術前患者の身体アセスメント」の記録を行い、実習終了後は他の記録と共に提出する。

＊その他の記録についてはP.9に準ずる。

成人看護学実習Ｃ

１．目的

緩和ケアを必要とする人を理解し、看護が実践できる基礎的能力を養う

２．目標

１）緩和ケアを必要とする人の全人的苦痛のアセスメントができる
２）全人的苦痛の緩和、ＱＯＬを高めるための援助ができる
３）緩和ケアを必要とする人の家族への援助が理解できる
４）チームアプローチの実際について知ることができる
５）自己の死生観を深めることができる

３．実習内容

１．疾患の進行に伴う苦痛の身体的・心理的・社会的・霊的状況のアセスメント
２．身体的苦痛や症状を緩和するための援助
３．化学療法・放射線療法に伴う苦痛を緩和するための援助
４．心理的・社会的・霊的苦痛を緩和するための援助
５．ＱＯＬを高めるための援助
６．意思決定のための援助
７．予期悲嘆とグリーフケアの実際を理解し、臨死期にある対象とその家族への援助
８．看護チームや緩和ケアチームアプローチ
９．自己の死生観・人間観・看護観

４．実習方法

１）緩和ケアを必要とする対象の看護を病棟で学ぶ
２）緩和ケアチーム活動の見学をする
（１）目的：複雑な問題を抱える患者、家族に対する専門的緩和ケアの実際を学ぶ
（２）目標：①緩和ケアのおけるコンサルテーションのあり方やチームアプローチの実際を学ぶ
②緩和ケアチームにおける看護師の役割を考えることができる
（３）方法：活動日（月曜日又は木曜日　14：00～終了まで）を見学実習する。
緩和ケアチームの合同カンファレンス、病棟ラウンドを主に見学する
（４）実習記録：テーマ「緩和ケアチームを見学して」の学びをＡ４サイズ用紙１枚程度、翌日担当教員に提出

成人看護学実習ＡＢＣの進め方

１．実習展開

１）実習期間中の到達目標と看護過程の展開目標

実習期間	実習到達目標	看護過程展開目標
1週目	対象の全体像が把握できる	情報アセスメントができる
2週目	問題解決の方法検討、看護実践ができる	看護計画の立案・実施ができる
3週目	看護実践ができる	看護計画の実施・評価ができる

２）病棟オリエンテーション

（１）病棟の構造，物品の場所や使用方法、病棟の週間予定、患者の一日の流れ、看護方式、スタッフの勤務体制など

（２）受け持ち患者の状態（氏名，年齢，性別，病名，経過の概要，現在の治療，看護の目標等）患者に関わるにあたり注意すること等

（３）感染症のある対象の物品の取り扱いや対応について

（４）患者紹介

３）一日の行動目標および行動計画

（１）患者の状況を踏まえ「一日の実習記録」用紙に行動目標と行動計画を記載し、実習に臨む

・看護技術、治療・検査・処置の介助などに関する知識・技術については、事前学習や練習を行う

（２）臨床指導者と行動計画に関して、確認・調整を受け、状況により計画の修正を行う

・計画は、どのような援助を行うかだけでなく、患者の状態に合わせて、いつ行うのかということも含め立案する

（３）援助の実施にあたって

・患者の安全･安楽に留意し、原則的に臨床指導者または教員とともに行う

・実施前にはこれから行おうとする看護援助の確認をしてもらい助言を受ける

（４）報告

・情報収集した内容や実施した援助について、臨床指導者または受け持ち看護師に報告する

・気になったことやヒヤリ、ハッとしたことは必ず報告する

4）カンファレンス運営

（1）原則として毎日実施する。

（2）司会・書記は学生が行う。カンファレンス場所や時間は事前に確認しておく。

（3）カンファレンスの日程と内容

	1週目	2週目	3週目
1日目	学習会	ケースカンファレンス	ケースカンファレンス
2日目	学習会	ケースカンファレンス	
3日目	全体像紹介	ケースカンファレンス	
4日目	全体像紹介	ケースカンファレンス	総合カンファレンス

（4）学習会

テーマは以下の通りである。必要な資料を準備し、学習会に臨む。

成人看護学実習A

①「輸液管理」ねらい：安全で確実に薬剤を投与するために必要な知識と輸液管理の実際がわかる。

②「心電図と不整脈の基礎」ねらい：正常な心電図と異常な波形を読み取れる力を養う。

成人看護学実習B：対象への看護実践に繋がるような学習会の運営を行う

①「ﾄﾞﾚｯｼﾝｸﾞ交換」目的：回診の介助と創傷治癒の実際に生かす

②「術前ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ、術前訓練」目的：術前看護の実際に生かす

③「ﾄﾞﾚｰﾝ管理」目的：創傷治癒の実際に生かす

成人看護学実習C

①「輸血療法」ねらい：安全で確実な輸血の実践・管理方法がわかる

②「化学療法・放射線療法を受けている人の看護」ねらい：
化学療法・放射線療法の種類と特徴を知り、化学療法の看護の実際がわかる

③「痛みのある人の看護」ねらい：全人的な痛みのアプローチ、
麻薬の種類と特徴を知り疼痛コントロールの実際がわかる

（5）全体像紹介

目的：得られた情報を整理し、受持ち患者の全体をどのように捉えているのか、今後どのように看護していこうと考えているのかを一人ずつ発表し、それらが適切なのか、どのように修正すればよいのかについて話し合う

方法：各自、発表資料を作成し、参加者人数分を印刷し準備する。
積極的にメンバー間で意見交換し、情報の共有を図る。必要時、臨床指導者や教員の助言を求める

（６）ケースカンファレンス

目的：対象への看護を実践する上で、対象理解や関わり方やケアの実践などで困っていること、疑問や解決を図りたいことなどを話し合う

方法：発表担当者は資料を作成し、カンファレンス参加者の人数分を準備する。話し合いたい内容は事前にメンバーに伝え、必要な学習・資料等を準備した上で参加する。

（７）総合カンファレンス

目的：各実習の目的・目標を踏まえ、自己の看護実践から得た学びを共有する場とする

方法：各自、レポートＡ４サイズ１枚に学びをまとめ発表をする。カンファレンス資料は各自の学びレポートを１つに綴じ、参加人数分を準備する。

２．記録

１）実習記録の種類

・「一日の実習記録」と「受け持ち患者記録」を使用する

２）実習終了後の記録提出について

・指定された期日に「一日の実習記録」及び「受け持ち患者記録」をレポートと一緒に担当教員へ提出する

３）終了後レポート

（１）各Ａ・Ｂ・Ｃ実習のレポートは、ケーススタディとする

（２）テーマは、実習の内容に沿って各自で設定

（３）書式：Ａ４サイズ 2000 字以上、鉛筆不可

（４）提出期限：指定された期日に実習記録と共に提出す

３．その他

１）オリエンテーションを受けるにあたり以下のものを持参し臨むこと

（１）学生便覧

（２）実習要綱

（３）セーフティマネジメントマニュアル

２）履修上の条件を確認の上、出席すること

４．手術室実習

１）目的

手術療法による患者への影響と手術室看護を学ぶ

２）目標

（１）受け持ち患者の手術見学を通して、手術療法による身体的侵襲を理解する

（２）手術入室から退室までの一連の経過を見学し、手術療法を受ける患者の体験を知り、心理・精神的な不安や負担を理解する

（３）手術療法が患者に及ぼす影響を理解し、手術後の看護について考えること出来る

（４）手術室看護（器械出し看護・外回り看護）の役割を理解する

３）学習内容：成人看護学 B 実習期間中の受け持ち患者の手術見学を行う

（１）手術室の治療環境

（２）手術を受ける患者の身体的・心理・社会的特徴

（３）手術室における看護師の役割

４）事前学習：「臨床外科看護総論」のテキストを活用し、要点をおさえ自分が理解できるようにまとめること（テキストを転記しないこと）事前学習をファイルして持参し手術見学に臨むこと

（１）創傷の治癒過程

（２）手術侵襲による生体の反応

（３）麻酔について：①麻酔とは

②麻酔の種類：全身麻酔について：気道確保の方法、気道内挿管

局所麻酔について：脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔

（４）手術中の看護

５）方法

（１）手術見学は、受け持ち患者の手術を見学する。（受け持ち患者に手術の予定がない場合はその限りではない）

（２）実習日が決まったら、見学する前日まで一日の実習記録の行動目標を記載し、担当教員に指導を受ける（手術見学に不安がある学生は事前に担当教員に相談すること）

（３）当日手術室に向かう前に病棟へ行き、見学する患者・病棟管理者に挨拶をし、その後、手術室へ向かう

（４）手術室へは患者が入室する前までに、学生用術衣に着替えて、患者の手術室入室から見学する

（５）担当看護師に行動目標を伝え、担当看護師のもと見学をすること

（６）手術見学中に気分不快となった場合は、速やかに指導者（外回り看護師）に報告すること。事前に不安がある場合は実習担当教員に報告すること。

６）実習記録

（１）見学実習で学んだ事を一日の実習記録に記載し、翌日、手術室受付に提出する

（２）実習時に担当の看護師に記録返却日を確認の上、各自が責任をもって、記録を受け取りにいく

（３）手術室から記録が返却されたのち、担当教員に提出すること

5．集中治療室実習

1）目的

集中治療室（ICU）入室患者のクリティカルケア看護の実際から、高次医療を必要とする対象の生命および心理的危機状態を知り、その支援について学ぶ

2）目標

（1）クリティカルケアの場と患者の特徴について理解できる

（2）クリティカル看護の役割について理解できる

（3）クリティカルケアにおける患者・家族への配慮について知ることができる

（4）集中治療室におけるチーム医療の実際について知ることができる

（5）クリティカルケア看護の実際から看護のあり方について考察できる

3）学習内容・方法

成人看護学 B 実習期間中の半日～1 日、集中治療室見学実習を行う

（1）学習内容

①集中治療室の治療環境

②集中治療室の入室患者の身体的・心理・社会的特徴

③集中治療における看護の役割

（2）方法

①学生は前日までに、一日の実習記録に行動目標を記載し、担当教員の指導を受ける

②当日、担当看護師に行動目標を伝え、担当看護師に同行しシャドウィングを行う

③1 日見学するか半日見学となるかは、当日の患者状況によるので、管理者の指示に従う。但し、成人看護学 B 実習・病棟実習の担当患者が集中治療室に入室している場合は、この限りではない

（3）実習記録

①見学実習で学んだ事を一日の実習記録に記載し、翌日、集中治療室に提出する

②実習時に担当の看護師に記録返却日を確認の上、各自が責任をもって、記録を受け取りにいく

③集中治療室から記録が返却されたのち、担当教員に提出する

６．救急室実習

１）目的

救急看護を受ける対象や家族の特徴、治療の場の実際を知り、救急治療を必要とする人のその支援について学ぶ

２）目標

（１）救急の場と患者・家族の特徴について理解できる

（２）救急看護の役割について理解できる

（３）救急看護の場におけるチーム医療の実際について知ることができる

（４）救急の場の特殊性について知ることができる

３）学習内容

成人看護学 B 実習期間中の 10：00～15：00 救急室見学実習を行う

（１）学習内容

①救急治療を受ける対象の身体的・心理的特徴

②救急看護の役割

③救急の場におけるチーム医療

（２）方法

①学生は前日までに、一日の実習記録に行動目標を記載し、担当教員の指導を受ける

②当日、担当看護師又は管理者に行動目標を伝え、担当看護師に同行し、シャドウィングを行う

③休憩時間は、担当看護師と同時間とする

４）実習記録

（１）見学実習で学んだ事を一日の実習記録に記載し、見学翌日の AM8：00（病棟実習前）までに提出する

（２）実習時に担当の看護師に記録返却日を確認の上、各自が責任をもって、記録を受け取りにいく

（３）救急室から記録が返却されたのち、担当教員に提出すること

成人看護学実習Ａ　評価表

学生番号	学生氏名		
実習期間	年　月　日 ～　年　月　日		実習病棟
出席状況	欠席時間数　　時間		
評　価	点	学生署名	教員署名

＊太枠内はボールペンで、ＡＢＣＤ及び自己評価は鉛筆で記入の上、提出する

評価項目		A	B	C	D	自己評価	教員評価
情報	1. 対象の背景がわかる 健康歴、既往歴、家族歴、日常生活習慣、受診行動、発達段階等						
	2. 対象の生理的様式に着目しアセスメントできる						
	3. 対象の心理・社会的様式に着目しアセスメントできる						
	4. 対象の病態および治療特性に着目しアセスメントできる						
	5. 看護上の問題を明らかにできる						
	6. 全体像を明らかにし優先順位が設定できる					/30	/30
計画	1. 看護目標が設定できる						
	2. 問題解決のための具体的な援助方法が提示できる					/10	/10
実施・コミュニケーション	1. 具体策にもとづいて実施できる （安全性、安楽性、目的性、経済性を考えて）						
	2. 対象に応じた工夫や応用をし実施することができる						
	3. 対象の価値観・意思決定を尊重したコミュニケーションがとれる						
	4. 治療的人間関係をふまえて実施できる						
	5. チーム医療の実際から、継続看護の必要性を考えることができる					/25	/25
評価	1. 目標の達成状況の妥当性を評価できる						
	2. 具体策の妥当性を評価できる						
	3. 看護の一連の過程をフィードバックできる					/15	/15
態度	1. 看護チームおよびグループの一員として自覚と思いやりがある						
	2. 良心的な態度で責任を持って行動できる						
	3. 積極的に実習に取り組むことができる					/15	/15
ケーススタディ：テーマ						/5	/5

教員評価

成人看護学実習Ｂ　評価表

学生番号	学生氏名		
実習期間	年　月　日 ～　年　月　日		実習病棟
出席状況	欠席時間数　　時間		
評　価	点	学生署名	教員署名

＊太枠内はボールペンで、ＡＢＣＤ及び自己評価は鉛筆で記入の上、提出する

	評価項目	A	B	C	D	自己評価	教員評価
情報	1. 対象の背景がわかる 健康歴、既往歴、家族歴、日常生活習慣、受診行動、発達段階等						
	2. 対象の生理的ニードに着目しアセスメントできる						
	3. 対象の心理・社会的ニードに着目しアセスメントできる						
	4. 対象の病態および治療特性に着目しアセスメントできる						
	5. 看護上の問題を明らかにできる						
	6. 全体像を明らかにし優先順位が設定できる					/30	/30
計画	1. 看護目標が設定できる						
	2. 問題解決のための具体的な援助方法が提示できる					/10	/10
実施	1. 具体策にもとづいて実施できる （安全性、安楽性、目的性、経済性を考えて）						
	2. 対象に応じた工夫や応用をし実施することができる						
	3. 対象の反応に留意したコミュニケーションがとれる						
	4. 治療的人間関係をふまえて実施できる						
	5. チーム医療の実際から、継続看護の必要性を考えることができる					/25	/25
評価	1. 目標の達成状況の妥当性を評価できる						
	2. 具体策の妥当性を評価できる						
	3. 看護の一連の過程をフィードバックできる					/15	/15
態度	1. 看護チームおよびグループの一員として自覚と思いやりがある						
	2. 良心的な態度で責任を持って行動できる						
	3. 積極的に実習に取り組むことができる					/15	/15
ケーススタディ：テーマ						/5	/5

教員評価

成人看護学実習Ｃ　評価表

学生番号	学生氏名		
実習期間	年　月　日 ～　年　月　日		実習病棟
出席状況	欠席時間数　　時間		
評　価	点	学生署名	教員署名

＊太枠内はボールペンで、ＡＢＣＤ及び自己評価は鉛筆で記入の上、提出する

	評価項目	A	B	C	D	自己評価	教員評価
情報	1. 対象の背景がわかる 健康歴、既往歴、家族歴、日常生活習慣、受診行動、発達段階等						
	2. 対象の生理的ニードに着目しアセスメントできる						
	3. 対象の心理・社会的ニードに着目しアセスメントできる						
	4. 対象の病態および治療特性に着目しアセスメントできる						
	5. 看護上の問題を明らかにできる						
	6. 全体像を明らかにし優先順位が設定できる					/30	/30
計画	1. 看護目標が設定できる						
	2. 問題解決のための具体的な援助方法が提示できる					/10	/10
実施	1. 具体策にもとづいて実施できる （安全性、安楽性、目的性、経済性を考えて）						
	2. 対象に応じた工夫や応用をし実施することができる						
	3. 対象の反応に留意したコミュニケーションがとれる						
	4. 治療的人間関係をふまえて実施できる						
	5. チーム医療の実際から、継続看護の必要性を考えることができる					/25	/25
評価	1. 目標の達成状況の妥当性を評価できる						
	2. 具体策の妥当性を評価できる						
	3. 看護の一連の過程をフィードバックできる					/15	/15
態度	1. 看護チームおよびグループの一員として自覚と思いやりがある						
	2. 良心的な態度で責任を持って行動できる						
	3. 積極的に実習に取り組むことができる					/15	/15
ケーススタディ：テーマ						/5	/5

教員評価

慈恵第三看護専門学校

学生番号＿＿＿＿＿＿＿＿　　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿